

北海道大学は アイヌ差別を 許しません

タン ポロカンピヌイエチセ、
アイヌ エウン ウハイタノ ヤイヌ シツテッカ、
ソノ シノ ソモ キクシネナ

多様な性

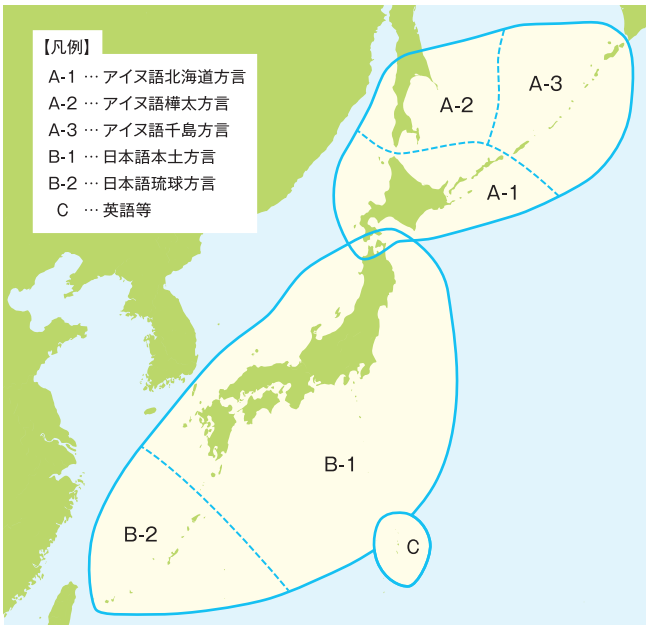
アイヌ
奄美
琉球

外国ルーツ

和人
(和民族)

多様な
身体

多様な
年齢



19世紀前半における日本列島の言語・文化集団(概念図)

日本列島の[民族]について

先住民族とは？

先住民族はIndigenous Peoplesの訳語として用いられる言葉です。①ある土地が近代国家の領土とされるよりも前にその土地に住み、②近代国家を作った民族とはアイデンティティが異なり、③同意を経ずに居住地を近代国家の領土とされ国民に統合されたために、不利な立場に追い込まれている人々を指します。アイヌ民族への見下しや排除は今なお根強くあります。

先住民族としての アイヌ民族

アイヌ施策推進法(2019年施行)では、アイヌ民族を「日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族」と定めています。これは、日本列島の長い歴史の中で、本州や南西諸島など同様に、アイヌ民族が独自の言語・文化を育んできた経緯を尊重しているからです。北海道の地にある教育研究機関として本学は、アイヌ民族の誇りが尊重される環境の実現に取り組んでいます。

レイシャル・ハラスメントとは

「肌の色、国籍、言語・慣習等の民族的属性を理由とする差別的言動」のことを指します。特定の民族や国籍の人々を軽視、蔑視、敵対視して、中傷、侮辱、否定する行為のほか、歴史的経緯を顧みない言動なども含まれ、人種差別の一種です。

アイヌ民族に対する差別は**アイヌ施策推進法**でも禁止されています。

レイシャル・ハラスメントとなる可能性がある言動

- 1 侮辱的、否定的、排他的、攻撃的言動および直接的暴力。
- 2 特定の民族や国籍の人々のアイデンティティおよび植民地支配等を含む集団の歴史の否定。
- 3 ルーツなどの属性を勝手に公表・流布したり、問いただしたりすること。
- 4 学生・教職員には日本人(和人)しかいない前提に立ち、会話、授業、学内業務、組織運営および構内の環境整備を行うこと。

ハラスメントによって

心への影響

ぼう然とする、気分が落ち込む、たいしたことがないと思おうとする、自分を責める、意欲がなくなる、など。

身体への影響

差別を思い出したり、大学へ行くことを考えたりすると、腹痛、吐き気、動悸がする、眠れなくなる、など。

大学生活への影響

人の視線が気になる、授業、研究室、職場がある大学に行くことができない、単位取得や業務など必要なことができない、など。

〈模擬ケース〉あなたは一読して、どう感じましたか？

「この場にはアイヌがいないと思うから言うが…」

アイヌの実態を知らずに、その場にはいないと決めつけることで、民族のアイデンティティや存在を否定している。

「アイヌは差別されていない」「学問の自由として許される」

人権の尊重、倫理の遵守は学問が成立する前提であり、これらより学問を優先させる態度は認められない。

私は、アイヌにルーツを持つ学部1年生です。私の名前は一般的な「和人」の名前で、外見もアイヌにルーツを持つかどうかは分かりにくいかもしれませんが。先日の授業で、教員が「この場にはアイヌがいないと思うから言うが…」などと言って、「北海道の歴史は開拓によって始まった」という講義を行いました。報道などでアイヌへの差別が話題になることがありますが、同級生の一部が、「アイヌは差別されていない」等と話をすることがあります。そして、これを咎められても、「学問の自由として許される」などと言い張るのです。そんな時、私は自分自身を否定されたような思いになり、本当につらくなります。私がアイヌにルーツがあると知った、あまり親しくない同級生から、「アイヌなんだってね。アイヌ語を喋ってみて」と言われるようなこともあります。

「アイヌなんだってね。アイヌ語を喋ってみて」

日本社会においてアイヌ語やアイヌの生活文化が長く否定的に取り扱われ、その結果、多くが失われた。興味本位で「何か見せろ」と求めることは、相手に屈辱を感じさせることがある。学問的関心からの質問も、歴史的経緯を知り、相手との関係を作ってから行うようにする。

レイシャル・ハラスメントに遭遇・目撃したら

被害を受けたときの対応

1. **被害を記録する** ・ハラスメントだと感じたことが起こった日時と場所
・どのようなことを言われた／されたのか
・誰に言われた／されたのか
・ハラスメントの現場に誰がいた／みていたか
2. **悩みを相談する** 右記の「相談窓口」を参照してください。

被害を目撃したときの対応

1. **注意をそらす** …… 別な話題などでハラスメント行為を中断させる。
2. **助けを求める** …… 近くにいる人や担当者の介入を求める。
3. **証拠を残す** …… 写真・録音等で状況を記録。取り扱いには注意する。
4. **後で対応する** …… 被害後の声かけなどのフォローやサポート。
5. **介入する** …… 「ハラスメントでは?」「まずいかも」と注意する。
6. 「被害を受けたときの対応」を支援する

! なお、これらの行為には危険が伴う場合もあるので、自分自身の安全の確保も確認してください。

【相談窓口】

【学内】ハラスメント相談室

<https://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/sekuhara/index.htm>



【学外】みんなの人権110番

☎0570-003-110 (最寄りの法務局につながります)

心のケアに関して相談したい場合 学生相談総合センター

<https://www.sacc.hokudai.ac.jp/>



医療に関して相談したい場合

保健センター

https://www.hokudai.ac.jp/hoken/about/facility_about.html



「マジョリティ」とは

しばしば多数派の意味で使われますが、社会において強い力を持つ人々をも指します。マジョリティには生まれながら有利な面が多くあり、そのことを知っていると、不利な立場に置かれた人(マイノリティ)の気持ちに配慮できることがあります。次の例は、日本のマジョリティが持つ優位さ(特権)の一部です。自分に当てはまる項目が多いほど、マジョリティ性が高いと言えます。

CHECK✓

- 自分の民族的出自を隠さなくてよい。気にしたことがない。
- 出身地を聞かれない。そこにいることを不思議がられない。
- 国内のどこでも、自分の言語で生活できる。新聞、雑誌、テレビ、標識、地図などに自言語が使われている。
- 学校・地域で自分の民族語(国語)、民族史(日本史)、民族文化(日本文化)を教わった。
- 幼少期から、先生の多くは自分と同じ民族だった。
- 企業などのトップ、政治家、メディアに登場する人物の多くが、自分と同じ民族である。
- 家族が差別を受ける心配をしたことがない。



相談を受けたら

悩みや感じている痛みを受け止め、話を聞く、相談窓口を教えてあげるなどの対応をしましょう。相手の経験や思いを否定する言葉は避けましょう。

こういう言葉は使わないで!!

「気のせいでは?」「考え過ぎじゃない?」「アイヌも直すところがあるよね?」

発行:北海道大学アイヌ共生推進本部 / アイヌ シサム ウレシパ ウコピリカレ ウシ

email: urespa-ukopirikare@general.hokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/ainu/>

2024年3月発行

